

平成23年度登録販売者試験問題

実施日：平成23年8月28日（日）

試験時間：10:00～12:00

内容：医薬品に共通する特性と基本的な知識（20問）
主な医薬品とその作用（40問）

◎ 問題用紙は、指示があるまで開かないでください。

【注意事項】

- 1 試験時間中は発言してはいけません。質問など用があるときは、だまって手を挙げて試験監督者の指示に従ってください。
- 2 携帯電話などの通信機器は、必ず電源を切っておいてください。
- 3 不正行為は絶対にしないでください。万一、発見した場合は、失格者として退場していただきます。
- 4 受験票は机に貼ってある受験番号を記載した札の横に置いてください。
- 5 受験票、鉛筆、消しゴム、時計以外のものは机の上におかないでください。
- 6 試験開始および試験終了は試験監督者の指示に従ってください。
- 7 試験が始まったら、解答用紙に受験番号および受験者氏名を忘れずに記入してから始めてください。
- 8 試験問題は、「医薬品に共通する特性と基本的な知識」10ページ、「主な医薬品とその作用」21ページの合計31ページです。
試験開始後、落丁がないことを確認してください。
- 9 各問題の正しい答えは一つしかないので、最も適切と思った答えを一つ選び、解答用紙に記入してください。
- 10 答えは丁寧に、はっきりと記載してください。また、答えを修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないよう完全に消してください。答えが判別できない場合は、不正解となるので注意してください。
- 11 試験開始後1時間を経過しましたら、試験を終了し、途中で退室することができません。ただし、再入室はできませんので、ご注意ください。
なお、時間内に退室する方は、解答用紙を伏せ、他の受験者の迷惑にならないよう、静かに退室してください。
- 12 問題用紙は、試験時間終了後持ち帰ることができます。
- 13 この試験の医薬品の成分の表記は、厚生労働省作成の「試験問題の作成による手引き（平成19年8月（平成21年6月一部修正））」に基づいています。

福 井 県

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、医療用医薬品ほど作用が強くないので、特に保健衛生上のリスクに注意する必要はない。
- b 医薬品は、人体に直接使用されない限り、人の健康に影響を与えることはない。
- c 医薬品は、必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮する。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者が知りたい情報を十分に得ることができるように、相談に対応することが不可欠である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	誤

問2

独立行政法人医薬品医療機器総合機構法における副作用の定義に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2箇所の(a)内は、どちらも同じ字句が入る。

この法律において「医薬品の副作用」とは、「(a)が適正な使用目的に従い(b)に使用された場合においてもその(a)により人に発現する(c)反応」と定義されている。

	a	b	c
1	許可医薬品	適正	有害な
2	一般用医薬品	過量	有害な
3	許可医薬品	適正	意図しない
4	一般用医薬品	過量	意図しない
5	一般用医薬品	適正	有害な

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問3

医薬品の副作用に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 通常、医薬品は複数の薬理作用を併せ持つため、期待される有益な反応（主作用）以外の反応が現れることがある。
- 2 医薬品の副作用は、薬理作用によるものとアレルギー（過敏反応）に大別される。
- 3 医薬品の有効成分だけでなく、基本的に薬理作用がない添加物も、アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）となりえる。
- 4 アレルギーには体質的要素はあるが、遺伝的要素はない。

問4

医薬品の副作用に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般用医薬品は、（ a ）な疾病に伴う症状の改善等を図るためのものであり、（ b ）の判断で使用するものであることにかんがみて、通常は、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先され、その兆候が現れたときには基本的に（ c ）することとされており、必要に応じて医師、薬剤師などに相談がなされるべきである。

	a	b	c
1	重度	医師	用量を減らして継続
2	軽度	医師	使用を中止
3	軽度	一般の生活者が自ら	使用を中止
4	重度	一般の生活者が自ら	用量を減らして継続
5	軽度	一般の生活者が自ら	用量を減らして継続

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問5

医薬品の相互作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、一つの医薬品の中に単一の成分を含んでいることが多いため、他の医薬品と併用しても作用が強く出過ぎたりすることはない。
- b かぜ薬、解熱鎮痛薬、アレルギー用薬では、成分や作用が重複することは少ないため、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避ける必要はない。
- c 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要となる。
- d 医療機関で治療を受けている場合、処方された医薬品と一般用医薬品の併用は、治療を行っている医師等に併用することについて問題がないか確認する必要がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問6

医薬品と食品との関係に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 酒類(アルコール)をよく摂取する者では、アセトアミノフェンの薬効が十分に得られなくなることがある。
- b 生薬成分が配合された医薬品と生薬成分を含む食品をあわせて摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- c ビタミンAは、ビタミンAを含む医薬品の服用量にさえ注意すれば過剰摂取になることはない。
- d カフェインはコーヒー等の食品にも含まれるが、カフェインを含む医薬品とコーヒーと一緒に服用してもカフェインの過剰摂取となることはない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	誤	誤

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問7

医薬品の使用上の注意等において用いられる乳児等の年齢区分のおおよその目安について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

乳児とは(a)、幼児とは(b)をいう。

	a	b
1	3歳未満	5歳未満
2	1歳未満	5歳未満
3	1歳未満	6歳未満
4	1歳未満	7歳未満
5	3歳未満	7歳未満

問8

高齢者の医薬品使用に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 高齢者は、年齢のみから一概にどの程度副作用を生じるリスクが増大しているかを判断することは難しい。
- 2 高齢者は、基礎疾患を抱えていることが多いが、一般用医薬品の使用によって、基礎疾患の症状が悪化するおそれはない。
- 3 高齢者は、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすいので注意が必要である。
- 4 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として65歳以上を指す。

問9

妊婦、妊娠していると思われる女性および授乳婦の医薬品使用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 妊婦が医薬品を使用した場合、胎盤関門によって、医薬品の成分の胎児への移行が防御される仕組みは全て解明されている。
- b 一般用医薬品では、使用上の注意で、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。
- c 便秘薬によって、流産や早産を誘発するおそれはない。
- d 授乳婦が医薬品を服用した場合、医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問10

妊婦および妊娠していると思われる女性が、妊娠前後の一定期間に、通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているものはどれか。

- 1 ビタミンA
- 2 ビタミンB1
- 3 ビタミンC
- 4 ビタミンE
- 5 ビタミンB6

問11

プラセボ効果に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）等が関与して生じると考えられている。
- b 通常、医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、薬理作用によるもののほか、プラセボ効果によるものも含まれている。
- c プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、不都合なもの（副作用）はない。
- d 客観的に測定可能な変化として現れることはない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問12

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることが多いことから、使用期限から十分な余裕をもって販売されることが重要である。
- b 医薬品に配合されている添加物成分には、高温や多湿、光等によって品質の劣化を起こすものはない。
- c 医薬品は、適切な保管・陳列がなされていれば、経時変化による品質の劣化は起こらない。
- d 医薬品は、いったん開封されても、表示されている使用期限まで品質が保証されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問13

一般用医薬品の役割として、誤っているものはどれか。

- 1 衛生害虫の防除
- 2 生活の質（QOL）の改善・向上
- 3 健康の維持・増進
- 4 殺菌消毒
- 5 生活習慣病の治療

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問14

適切な医薬品選択と受診勧奨に関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 高熱や激しい腹痛など症状が重いときには、ただちに一般用医薬品を使用して症状の軽減を図ることが適切な対処である。
- 2 一般用医薬品を一定期間使用して、症状の改善がみられない場合であっても、悪化しない限り、医療機関の受診を勧める必要はない。
- 3 一般用医薬品を購入しようとする者への情報提供は、医療機関の受診を勧めたり、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合もある。
- 4 一般用医薬品で対処可能な範囲は、乳幼児や妊婦等では、通常の成人と変わらないので、特に留意する必要はない。

問15

セルフメディケーションに関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

WHO（世界保健機関）によれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に（ a ）を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」こととされている。（ b ）の利用のほか、食事と栄養のバランス、睡眠・休養、運動、禁煙等の（ c ）の改善を含めた健康維持・増進全般について「セルフメディケーション」という場合もある。

	a	b	c
1	自信	処方せん医薬品	生活環境
2	責任	処方せん医薬品	生活習慣
3	自信	一般用医薬品	生活環境
4	自信	一般用医薬品	生活習慣
5	責任	一般用医薬品	生活習慣

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問16

一般用医薬品の販売時の登録販売者と購入者等とのコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 情報提供は、単に専門用語を分かりやすい平易な表現で説明するだけでなく、説明した内容が生活者にどう理解されているかなどの実情を把握しながら行うことにより、その実効性が高まる。
- b 一般用医薬品は、一般の生活者がある選択や使用を判断する主体であり、医薬品の販売等に従事する専門家は、生活者の自己選択に対し、静観するという姿勢で臨むことが基本となる。
- c すぐに医薬品を使用する状況にない場合は、購入者等に対して、実際に使用する際に、販売時になされた情報提供の内容を思い起こしながら、改めて添付文書等に目を通すよう促すことが重要である。
- d 情報提供を受ける購入者等が医薬品を使用する本人である場合で、かつ、現に症状等がある場合には、その人の状態や様子全般から得られる情報も、状況把握につながる重要な手がかりとなる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問17

サリドマイドに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。
 なお、記述中の年月についての誤りはないものとする。

- a サリドマイドは、妊娠している女性が摂取した場合、胎盤関門を通過して胎児に移行する。
- b サリドマイド製剤は、催眠鎮静剤等として販売されていたが、副作用として血管新生を促す作用があった。
- c サリドマイドの光学異性体のうち、鎮静作用のあるR体のみを分離して製剤化すれば、催奇形性は避けられた。
- d 1961年11月に西ドイツのレンツ博士がサリドマイド製剤について警告を発し、日本でも直ちに販売停止および回収措置がとられた。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問18

スモン訴訟に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

スモン訴訟とは、(a)として販売されていた(b)製剤を使用したことにより亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。

サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、1979年、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、(c)が創設された。

	a	b	c
1	整腸剤	キノホルム	医薬品副作用被害救済制度
2	整腸剤	ピリン系	感染等被害救済制度
3	整腸剤	キノホルム	感染等被害救済制度
4	解熱鎮痛剤	ピリン系	感染等被害救済制度
5	解熱鎮痛剤	キノホルム	医薬品副作用被害救済制度

I 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問19

HIV訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a HIV訴訟は、白血病患者が、ヒト免疫不全ウイルスが混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b HIV訴訟は、製薬企業だけでなく、国も被告として提訴された。
- c HIV訴訟を踏まえ、緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための「緊急輸入」制度が創設された。
- d HIV訴訟を踏まえ、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られた。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問20

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a CJD訴訟は、脳外科手術等に用いられていたウシ乾燥硬膜を介してクロイツフェルト・ヤコブ病に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b 脂質の一種であるプリオンが原因である。
- c 次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- d CJD訴訟の和解を踏まえて、CJD患者の入院対策・在宅対策の充実が講じられるようになった。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問 2 1

かぜ薬（総合感冒薬）の配合成分とその目的とする作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

[配合成分]	[作用]
a エテンザミド	去痰 ^{たん} 作用
b セミアルカリプロテイナーゼ	抗炎症作用
c 塩酸クロペラスチン	鎮咳 ^{かい} 作用
d ブロメライン	解熱 ^{かい} 作用

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 2 2

かぜ薬（総合感冒薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜの諸症状の緩和を目的として使用される医薬品の総称である。
- b ウイルスを体内から取り除く作用がある。
- c 重篤な副作用は、解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）が配合されていることによるものが多い。
- d 塩酸ブロムヘキシンは、くしゃみや鼻汁を抑えることを目的として配合されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

II 主な医薬品とその作用

問23

次の記述に最も適する漢方処方製剤はどれか。

かぜのひき始めにおける諸症状、頭痛、肩こり、筋肉痛、手足や肩の痛みに適すとされるが、体の虚弱な人(体力の衰えている人、体の弱い人)、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることが知られている。

- 1 さんおうしやしんとう
三黄瀉心湯
- 2 しちもつこうかとう
七物降下湯
- 3 ききょうとう
桔梗湯
- 4 くふうげどくとう
驅風解毒湯
- 5 かっこんとう
葛根湯

II 主な医薬品とその作用

問24

次のかぜ薬に含まれる成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

成人1日量（9錠中）

フマル酸クレマスチン	1.34mg
塩化リゾチーム(リゾチームとして)	60mg(力価)
アセトアミノフェン	900mg
リン酸ジヒドロコデイン	24mg
ノスカピン	36mg
塩酸メチルエフェドリン	60mg
グアヤコールスルホン酸カリウム	240mg
無水カフェイン	75mg
ビタミンB1誘導体	24mg

- a フマル酸クレマスチンは、くしゃみや鼻汁を抑えることを目的として配合されている。
- b 塩化リゾチームは、鼻粘膜や喉の炎症を生じた組織の修復に寄与するほか、痰の粘りけを弱める作用を示すとされる。
- c ノスカピンは、モルヒネと同じ基本構造を持つため、依存性がある。
- d 塩酸メチルエフェドリンは、抗コリン作用によって鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として配合されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問25

解熱鎮痛成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスピリンは、ライ症候群の発生との関連性が示唆されているため、一般用医薬品では、15歳未満の小児に対してはいかなる場合も使用しないこととなっている。
- b サザピリンはピリン系の解熱鎮痛成分であり、ピリン^{しん}疹と呼ばれるアレルギー症状をもたらすことがある。
- c アセトアミノフェンは、中枢性の作用によって解熱・鎮痛をもたらすほか、抗炎症作用も期待できる。
- d イソプロピルアンチピリンは、解熱や鎮痛の作用が比較的強いが、抗炎症作用は弱いとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問26

イブプロフェンに関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 体内でのプロスタグランジンの産生を抑える作用はない。
- 2 一般用医薬品では、小児向けの製品はない。
- 3 まれに重篤な副作用として、肝機能障害、腎障害、無菌性髄膜炎^{ずい}を生じることがある。
- 4 胃・十二指腸潰瘍^{かいよう}、潰瘍性大腸炎^{かいよう}等の既往歴がある人では、それらの疾患の再発を招くおそれがある。

II 主な医薬品とその作用

問27

眠気を促す薬とその成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 加味帰脾湯^{かみきひとう}は、虚弱体質で血色の悪い人における、不眠症、精神不安、神経症、貧血に適すとされる。
- b. 生薬成分のみからなる鎮静薬であれば、複数の鎮静薬の併用や、長期連用を避ける必要はない。
- c. 塩酸ジフェンヒドラミンは、脳内におけるヒスタミンの刺激を増強して、眠気を促す。
- d. アリルイソプロピルアセチル尿素は、反復して摂取すると依存を生じるおそれがある。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問28

一般用医薬品に配合されるカフェインに関する記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして (a) mg、1日摂取量では (b) mgが上限とされている。

	a.	b
1	100	500
2	200	500
3	200	1,000
4	400	500
5	400	1,000

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問29

鎮暈薬(乗物酔い防止薬)の配合成分とその分類について、正しいものの組み合わせはどれか。

【配合成分】	【分類】
a ジプロフィリン	抗ヒスタミン成分
b テオクラ酸プロメタジン	中枢神経系を興奮させる成分
c 臭化水素酸スコポラミン	抗コリン成分
d アミノ安息香酸エチル	局所麻酔成分

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問30

鎮暈薬(乗物酔い防止薬)として使用される塩酸ジフェニドールに関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 内耳への血流を改善する作用を示す。
- 2 胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげる。
- 3 緑内障の人では、その症状を悪化させるおそれがある。
- 4 内耳にある前庭と脳を結ぶ神経(前庭神経)の調節作用を示す。

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問31

小児の疳^{かん}を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）とその成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ゴオウ、ジャコウは、緊張や興奮を鎮め、また、血液の循環を促す作用等を期待して用いられる。
- b 小児鎮静薬を一定期間または一定回数服用させても症状の改善がみられない場合は、漫然と使用を継続せず医療機関を受診させることが望ましい。
- c カンゾウは、血液の循環を促す作用を期待して配合される。
- d 小児鎮静薬は、作用が穏やかで小さな子供に使用しても副作用がないので積極的に使用すべきである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

II 主な医薬品とその作用

問32

鎮咳去痰薬に配合される生薬成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ゴミシは、ユリ科のジャノヒゲまたはその同属植物の根の膨大部を用いた生薬で、鎮咳、去痰、滋養強壯等の作用を期待して用いられる。
- b シャゼンソウは、オオバコ科のオオバコの花期の全草を用いた生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- c ナンテンジツは、バラ科のヤマザクラまたはその同属植物の樹皮を用いた生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- d キョウニン^{ずい}は、バラ科のアンズ^{がいそう}の種子を用いた生薬で、体内で分解されて生じた代謝物の一部が延髄の呼吸中枢、咳嗽中枢を鎮静させる作用を示すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問33

口腔咽喉薬や含嗽薬に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 ヨウ素系殺菌消毒成分が口腔内に使用される場合、結果的にヨウ素の摂取につながり、甲状腺におけるホルモン産生に影響を及ぼす可能性がある。
- 2 白虎加人参湯は、喉の渇きとほてりのある人、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸虚弱で冷え症の人に適すとされる。
- 3 塩化リゾチームは口腔咽喉薬や含嗽薬の配合成分として使用された場合であっても、ショック（アナフィラキシー）や皮膚粘膜眼症候群のような重篤な副作用を生じることがある。
- 4 アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して配合されている場合がある。

II 主な医薬品とその作用

問34

次の胃腸薬の使用にあたって注意すべき事項の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

1日量 9錠中

塩酸セトラキサート	600mg
ロートエキス3倍散(ロートエキスとして30mg)	90mg
沈降炭酸カルシウム	1,200mg
水酸化マグネシウム	300mg

- a 血栓のある人では、治療を行っている医師等に相談することが望ましい。
- b 胃腸鎮痛鎮痙^{けい}薬との併用を避ける必要がある。
- c 便秘や下痢の症状があらわれることがある。
- d 母乳を与えている女性では、母乳が出にくくなることもある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問35

胃の薬に用いられる成分とその目的とする作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

[成分]	[作用]
a ゲファルナート	胃液分泌抑制作用
b 塩酸ピレンゼピン	消化作用
c 合成ヒドロタルサイト	制酸作用
d デヒドロコール酸	利胆作用

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

II 主な医薬品とその作用

問36

胃腸鎮痛鎮痙薬に用いられる成分について、消化管の粘膜および平滑筋に対する麻酔作用が主たる効果として期待されるものはどれか。

- 1 ロートエキス
- 2 オキセサゼイン
- 3 臭化ブチルスコポラミン
- 4 塩酸オキシフェンサイクリミン
- 5 塩酸パパベリン

問37

腸の薬として用いられる成分について、大腸を刺激して排便を促すことを目的として配合されるものはどれか。

- 1 次没食子酸ビスマス
- 2 ダイオウ
- 3 塩酸ロペラミド
- 4 ヒマシ油
- 5 タンニン酸ベルベリン

問38

駆虫薬に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 サントニンは、回虫の自発運動を抑える作用を示す。
- 2 カイニン酸は、回虫に痙攣を起こさせる作用を示す。
- 3 リン酸ピペラジンは、蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示す。
- 4 パモ酸ピルビニウムは、水に溶けにくいいため消化管からの吸収は少ないとされている。

II 主な医薬品とその作用

問39

心臓の働きおよび強心薬とその成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。
- 2 動悸は、心臓から十分な血液が送り出されないと体の各部への酸素の供給が低下するため、呼吸運動によって取り込む空気の量を増やすことでそれを補おうとして起こる。
- 3 ゴオウは強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- 4 強心薬については一般に、5～6日間使用して症状の改善がみられない場合には、心臓以外の要因も考えられる。

問40

高コレステロール改善薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a パンテチンは、肝臓におけるコレステロール代謝を正常化する働きがあるとされ、高密度リポ蛋白質（HDL）の分解を促し、低密度リポ蛋白質（LDL）を増加させる効果を期待して用いられる。
- b リボフラビンの摂取によって尿が黄色になることがあるが、これは使用の中止を要する副作用等の異常ではない。
- c 大豆油不飽和化物（ソイステロール）には、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- d ビタミンEは、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問41

コレステロールに関する記述について、正しいものはどれか。

- 1 食事から摂取された蛋白質から主に産生される。
- 2 水に溶けやすく、血液中では血漿蛋白質と結合したリポ蛋白質となって存在する。
- 3 細胞の構成成分であり、胆汁酸等の生理活性物質の産生に重要な物質である。
- 4 肝臓から末梢組織へ、血液中の高密度リポ蛋白質（HDL）により運ばれる。

問42

貧血用薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 鉄製剤は、消化器系への副作用がないので、鉄分の吸収が高い食前に服用することが望ましい。
- b マンガンは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分である。
- c 鉄分は、赤血球が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なミネラルである。
- d 硫酸銅は、補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で配合される。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

II 主な医薬品とその作用

問43

痔および痔の薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 痔瘻は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状の腫れが生じたものである。
- b 裂肛は、肛門の出口からやや内側の上皮に傷が生じた状態であり、一般に、「切れ痔」(または「裂け痔」と呼ばれる。
- c 外用痔疾用薬は局所に適用されるものであるので、全身的な影響を生じることはない。
- d 内用痔疾用薬は、比較的緩和な抗炎症作用、血行改善作用を目的とする成分のほか、瀉下・整腸成分等が配合されたもので、外用痔疾用薬と併せて用いると効果的なものである。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問44

泌尿器用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 日本薬局方収載のウワウルシは、煎薬として残尿感、排尿に際して不快感のある人に用いられる。
- b 八味地黄丸は、疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少または多尿で、ときに口渴がある人における、下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目等に適すとされる。
- c 六味丸は、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、腹痛、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- d 竜胆瀉肝湯は、構成生薬としてカンゾウを含む。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問45

女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる次の漢方処方製剤のうち、カンゾウを含有するものはどれか。

- 1 温清飲うんせいいん
- 2 桂枝茯苓丸けいしよくりようがん
- 3 四物湯しもつとう
- 4 当帰芍薬散とうきしやくやくさん
- 5 五積散ごしゃくさん

問46

アレルギー用薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸ジフェンヒドラミンは、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがある。
- b 抗ヒスタミン成分としてプロメラインが用いられる。
- c 塩酸ピリドキシンは、アドレナリン作動成分として配合され、副作用として、めまいや頭痛、排尿困難が現れることがある。
- d 鼻炎用内服薬では、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として、ペラドンナ総アルカロイドが配合されることがある。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

II 主な医薬品とその作用

問47

アレルギー用薬に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2箇所の(c)内はどちらも同じ字句が入る。

アレルギーが皮膚や粘膜から体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した(a)によって(b)が刺激され、細胞間の刺激の伝達を担う生理活性物質である(c)やプロスタグランジン等の物質が遊離する。アレルギー用薬はこの(c)の働きを抑える作用を示す成分を主体として配合されている。

	a	b	c
1	抗原	肥満細胞	ヒスタミン
2	抗原	肥満細胞	アドレナリン
3	抗原	貪食細胞	アドレナリン
4	抗体	肥満細胞	ヒスタミン
5	抗体	貪食細胞	ヒスタミン

問48

鼻炎用点鼻薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬は、過度に使用すると、かえって鼻づまりがひどくなりやすい。
- b 急性鼻炎または副鼻腔炎による諸症状のうち鼻づまり等の緩和を目的として使用されるが、アレルギー性鼻炎には使用されない。
- c スプレー式鼻炎用点鼻薬は、噴霧後に鼻汁とともに流れ出るので、使用前に鼻をよくかんでおく必要がある。
- d 塩化ベンゼトニウムは、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌に対する消毒作用の他、ウイルスにも有効である。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

II 主な医薬品とその作用

問49

点眼薬に使用されるメチル硫酸ネオスチグミンの配合目的について、正しいものはどれか。

- 1 結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去する。
- 2 ヒスタミンの働きを抑えることにより、目の^{かゆ}痒みを和らげる。
- 3 結膜や角膜の乾燥を防ぐ。
- 4 毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する。

問50

次の点眼薬に関する配合成分の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

成分・分量

スルファメトキサゾール……………4.0%
マレイン酸クロルフェニラミン……………0.03%
グリチルリチン酸二カリウム……………0.25%
タウリン……………0.5%

- a スルファメトキサゾールは、サルファ剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人では、使用を避けることが望ましい。
- b マレイン酸クロルフェニラミンは、鼻炎用点鼻薬と併用した場合には、眠気が現れることがある。
- c グリチルリチン酸二カリウムは、末梢血管を拡張させて血流を改善する効果を期待して配合される。
- d タウリンは、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を期待して配合される。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

Ⅱ 主な医薬品とその作用

問51

殺菌消毒薬に用いられる成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ヨードチンキは、ヨウ素をポリビニルピロリドン（PVP）と結合させて水溶性とし、徐々にヨウ素が遊離して殺菌作用を示すように工夫されたものである。
- b オキシドールは、有機水銀の一種であるが通常の使用において水銀中毒を生じることはない。
- c エタノールは、粘膜（口唇等）や目の周りへの使用は避ける必要がある。
- d 塩酸クロルヘキシジンは、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問52

次の外皮用薬として用いられる抗炎症成分のうち、ステロイド性抗炎症成分はどれか。

- 1 ブフェキサマク
- 2 ピロキシカム
- 3 ケトプロフェン
- 4 吉草酸酢酸プレドニゾロン
- 5 インドメタシン

II 主な医薬品とその作用

問53

肌の角質化、かさつき等を改善する外皮用薬の配合成分とその特徴について、正しいものの組み合わせはどれか。

[配合成分]

[特徴]

- a イオウ・・・・・・・・・・ 皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
- b サリチル酸・・・・・・・・ 角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。
- c 白色ワセリン・・・・・・・・ 頭皮の落屑（ふけ）を抑える効果を期待して、毛髪用薬に配合されている場合がある。
- d 尿素・・・・・・・・・・ 抗菌、抗真菌、抗炎症作用を期待して、にきび用薬等に配合されている場合がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問54

頭皮・毛根に作用する毛髪用薬の配合成分とその特徴について、誤っているものはどれか。

[配合成分]

[特徴]

- 1 カシュウ・・・・・・・・・・ タデ科ツルドクダミの塊根を用いた生薬で、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。
- 2 ヒノキチオール・・・・・・・・ ヒノキ科のタイワンヒノキ、ヒバ等から得られた精油成分で、抗菌、血行促進、抗炎症等の作用を期待して用いられる。
- 3 安息香酸エストラジオール・・ 女性ホルモンによる脱毛抑制効果を期待して用いられる。
- 4 塩化カルプロニウム・・・・・・・・ 末梢組織（適用局所）において抗コリン作用を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。

II 主な医薬品とその作用

問55

歯痛薬（外用）・^{そろうろう}歯槽膿漏薬の配合成分とその目的とする作用について、誤っているものはどれか。

【配合成分】	【作用】
1 オイゲノール・・・・・・・・・・・・・・・・	殺菌消毒作用
2 サンシシ・・・・・・・・・・・・・・・・	抗炎症作用
3 塩化セチルピリジニウム・・・・・・・・	止血作用
4 アラントイン・・・・・・・・・・・・・・・・	組織修復作用

問56

滋養強壮保健薬の配合成分とその目的とする作用について、正しいものの組み合わせはどれか。

【配合成分】	【作用】
a ヘスペリジン・・・・・・・・	ビタミン様物質のひとつで、ビタミンCの吸収を助ける。
b アスパラギン酸ナトリウム・・・・	軟骨成分を形成および修復する働きがある。
c ガンマ-オリザノール・・・・・・・・	米油および米胚芽油から見出され、抗酸化作用を示す。
d コンドロイチン硫酸ナトリウム・・	肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

II 主な医薬品とその作用

問57

滋養強壮保健薬に用いられるビタミン成分に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 ビタミンAは、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- 2 ビタミンDは、腸管でのカルシウム吸収および尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
- 3 ビタミンEは、体内の脂質を酸化から守り、細胞の活動を助ける栄養素であり、血流を改善させる作用もある。
- 4 ビタミンB1は、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、神経の正常な働きを維持する作用がある。

問58

殺菌消毒薬の誤用、事故等による中毒への対処に関する記述について、誤っているものはどれか。

- 1 原末や濃厚液を誤って飲み込んだ場合、自己判断で安易に吐き出させることは避ける。
- 2 誤って皮膚に付着した場合、流水をかけながら着衣を取り、石鹼^{げん}を用いて流水で皮膚を十分に（15分間以上）水洗する。
- 3 誤って吸入し、意識がない場合、新鮮な空気^{きん}の所へ運び出し、人工呼吸等をする。
- 4 酸性の消毒薬が誤って目に入った場合、アルカリで中和したあと、流水で十分に（15分間以上）洗眼する。

問59

次の殺虫剤に用いられる成分のうち、有機リン系殺虫成分はどれか。

- 1 オルトジクロロベンゼン
- 2 ペルメトリン
- 3 ジクロルボス
- 4 プロボクスル
- 5 メトプレン

II 主な医薬品とその作用

問60

衛生害虫の防除に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ハエの防除の基本はウジの防除であり、ウジの防除としては、通常、有機リン系殺虫成分が配合された殺虫剤が用いられる。
- b トコジラミは、体長が非常に小さいので、電気掃除機での吸引による駆除はできない。
- c 屋内塵性ダニおくないじんに殺虫剤を散布する場合には、湿度がダニの増殖の要因になるため、水で希釈するものの使用は避け、エアゾール、粉剤が用いられることが望ましい。
- d ゴキブリの卵は医薬品の成分が浸透しやすい殻くわで覆われているため、燻蒸処理を一度行えば十分な殺虫効果が期待できる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正